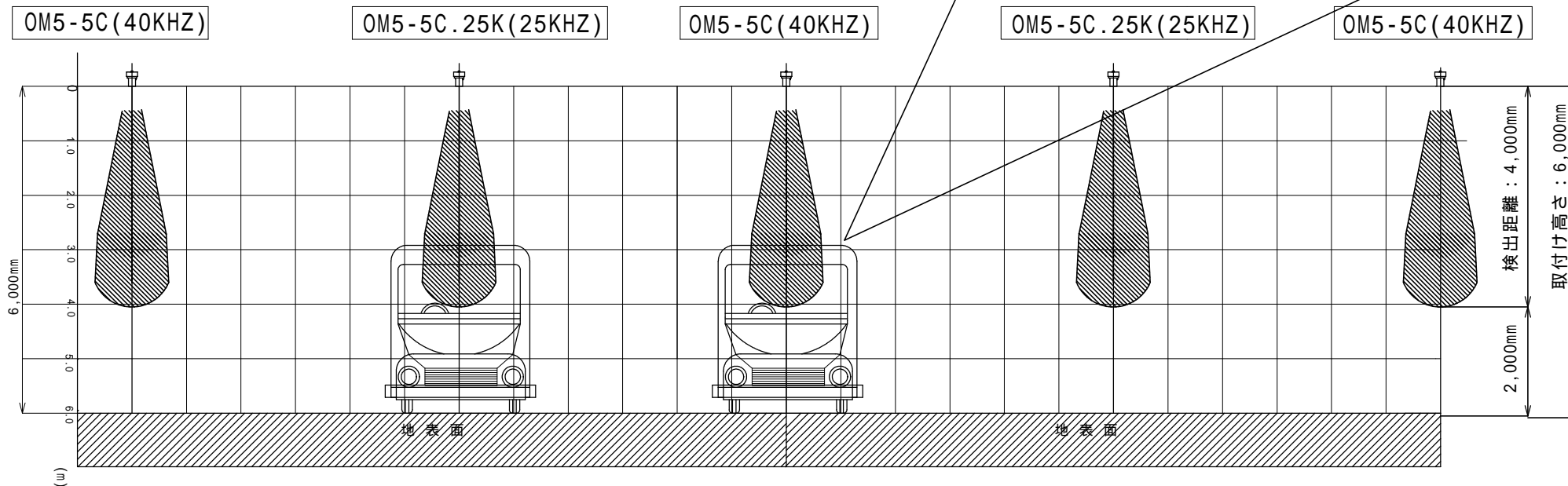


< **トラック用(車検知)超音波センサー/相互干渉を避ける** >

最大検出距離：5m (距離可変)、検出動作幅径：1,500mm at 4m、メインテフリー

統計的にトラックの高さは最低で3,040mmで最高で3,800mmなので、最低高さを基準に、センサーの検出距離を取付位置より4,000mmとします。地上より、2,000mmの距離ですが、この事は下に居る作業員は検知しない事も利点としてあります。



周波数の異なる2種類の超音波センサーを、交互に取付け干渉を避ける。 同じ周波数間の距離は12mとなり、この距離では干渉は有り得ません (設置高さ6mですと互いに6mも離せばほぼ大丈夫です)。場所によっては5.5m程度の間隔の場所もある為交互に異周波数のセンサーを取付け万全を期した。

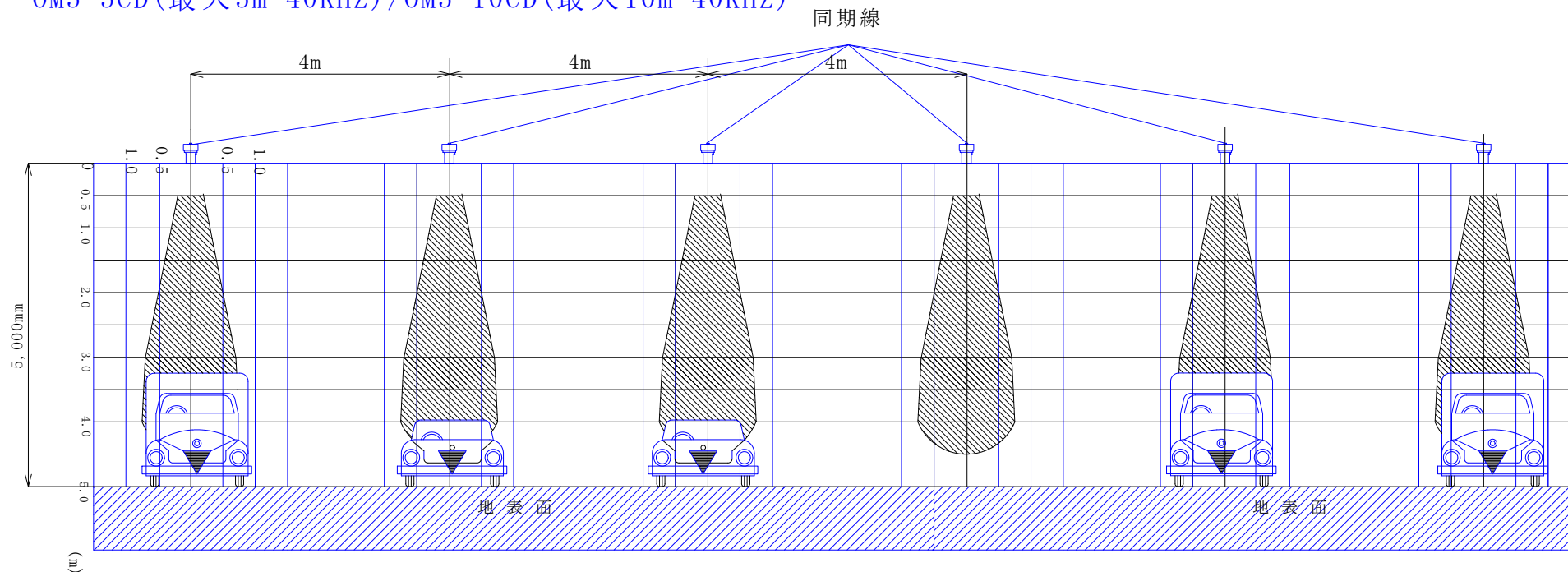
* 周波数が異なる場合と同期線接続の場合は干渉 (混信) しません。

平成22年6月17日

<トラックヤード・清掃工場・セルフスタントにおける車両（軽トラック・乗用車・トラック）検出>

最大検出距離：5m（距離可変）、検出動作幅径：1,500mm at 4m、メインテフリー

OM5-5CD(最大5m 40KHZ)/OM5-10CD(最大10m 40KHZ)

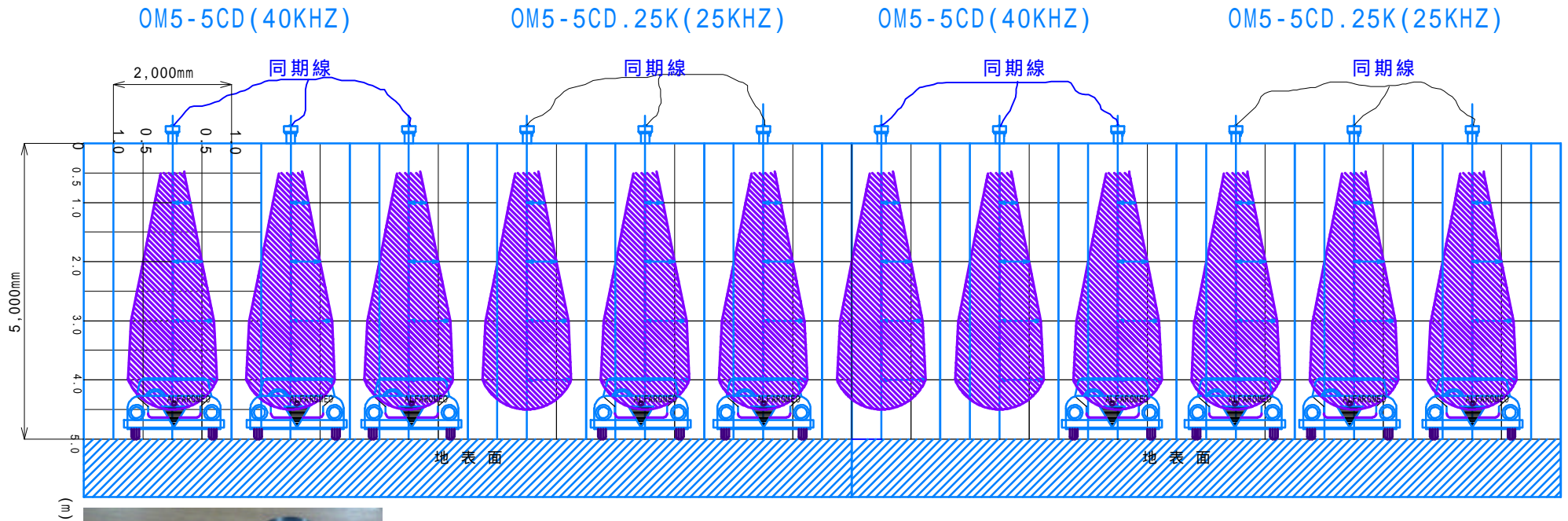


トラックの集荷場で半屋外の比較的高い屋根（5m以上）等に超音波センサを取付けます。トラックだけを検出する場合は検出距離を3mに設定し下を徘徊する作業員は検知しないようにします。

軽トラックを含む全ての車輛を検知する場合は、地表面から50cmの高さ（4.5m）に設定します。トラックヤード以外での同様の事例は清掃工場での清掃車輛検知が有ります。この場合はさらに取付け場所が高いため最大10m検出のOM5-10CDを使用します。干渉は同期線接続で解決です。

< 駐車場用 (車輛有無) 超音波センサ- / 相互干渉を避ける >

最大検出距離：5m (距離可変)、検出動作幅径：1,500mm at 4m、メインテフリー

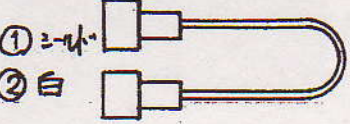
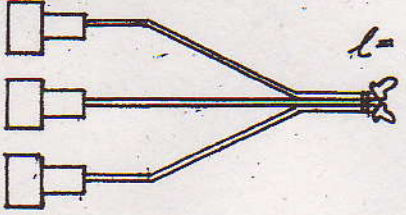
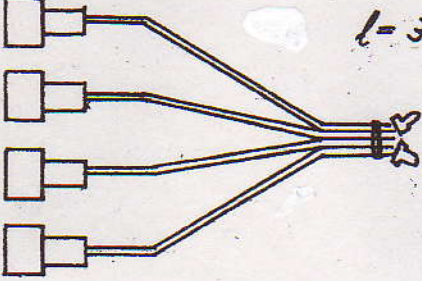

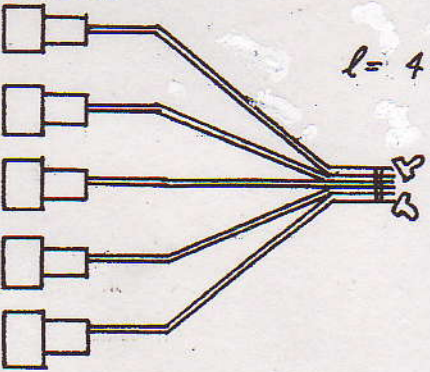


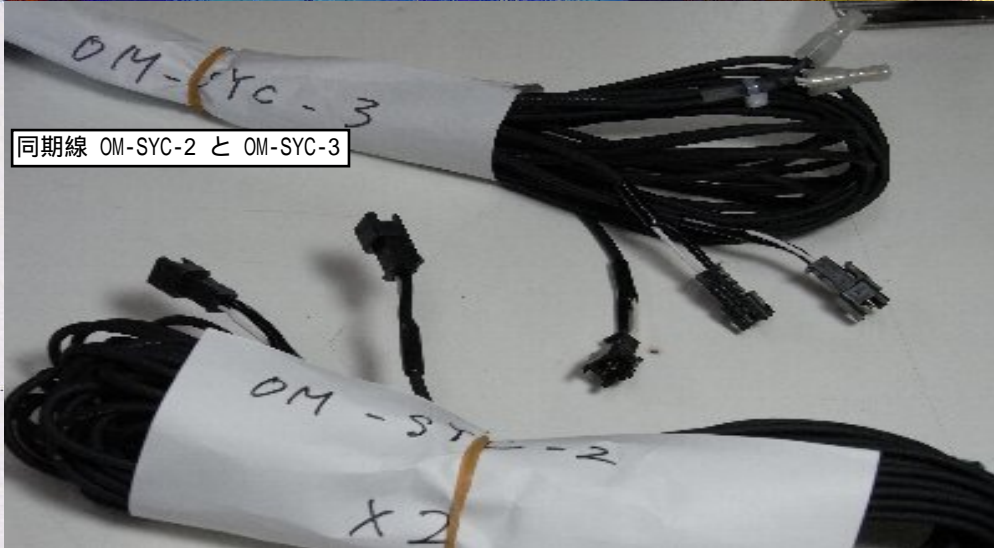
周波数の異なる2種類の超音波センサ-を、それぞれ3個ずつ(6m間隔取れる)同期線で接続し同時に発振させ干渉を避ける。次に周波数の異なる同期線で接続した3個の組みを並べる。基本は6mの間隔を確保するために3個一組とするが最後は1個・2個(同期線接続要)もしくは3個(同期線要)とする。

平成17年8月23日

同期コネクター付き超音波センサ用同期線 (OM-SYCシリーズ)。
 基本的には相互干渉を避けるため発振をシンクロナイズさせ誤動作を未然に防ぐ。

ケーブル長は標準長以外はその都度指定すること

	形式	外観・構造	
	OM-SYC-2 L=1.5m	<p>2-SMR-02VB</p> 	
	OM-SYC-3 L=2m	<p>3-SMR-02VB</p> 	
	OM-SYC-4 L=3m	<p>4-SMR-02VB</p> 	
 <p>同期コネクター付き各種超音波センサ</p>	OM-SYC-5 L=4m	<p>5-SMR-02VB</p> 	



TITLE	
同期用コード ASSY	
DRAWG. No.	
OM-SYC-XX	A

